

One-Bo 1.20 利用インタビュー

武藤工業株式会社 様





武藤工業株式会社

国内営業本部 LFP営業部

道村 峻圭

武藤工業株式会社

東京都世田谷区に本社を置き、大判インクジェットプリンタや3Dプリンタの開発、製造、販売の事業を展開しているデジタル印刷機メーカー。長野、愛知、大阪、福岡に工場や営業所などの拠点をもち、全国規模で地域産業の発展に貢献している。

道村峻圭（国内営業本部 LFP営業部）

大型フラットヘッド式プリンターの専任担当者として、全国の営業をサポート。印刷機の性能や活用方法を熟知し、社内外からの多種多様な相談・要望に対応している。

One-Boは、やはりとても便利。

プリンタという商品の性質上、実機を見ながらの打ち合わせはどうしても必要なので、弊社の場合は完全リモート化はできません。けれども、コロナの影響により、業務のオンライン化はかなり推進されました。現在、ミーティングや商談、打ち合わせは半数程がオンライン会議です。

オンライン会議が日常的になって以降、発生していた課題は、周囲の雑音の問題です。自分自身は、デスクからオンライン会議に参加することが多かったのですが、自分のPCのマイクがノイズを拾ってしまっていないか、とても気になっていました。こまめにミュートのON/OFFを切り替えていましたが、オンライン会議の相手に迷惑をかけていないか、よく心配してましたね。

One-Boを利用することで、周囲の話し声等のノイズが相手に迷惑をかけていないかの心配はなくなりましたし、自分の声が周囲の人に迷惑をかけていないかの心配もなくなりました。One-Boがあるとやはりとても便利ですね。その他にも、実際に使ってみて良いなと感じた点がいくつかあります。



ボタン1つで集中できる環境が整えられる。 音量の漏れ具合も実はちょうど良い。

個人的にかなり気に入っているのは、スマートガラスの機能ですね。オンライン会議中、どうしても周りの視線が気になってしまいますので、集中できる環境を瞬時に作れる点がとても便利です。何か特別な準備や作業をすることもなく、ボタン1つで操作できるという点が良いですね。

また、遮音性ですが、実際に使ってみた感覚としては「ちょうど良い」でしたね。漏れる音量がちょうど適切だと感じました。完全防音ではないけど、話の内容が聞き取れる程は漏れておらず、One-Boの中に人がいるのがわかる程度の漏れ具合なので、ちょうど良いんです。少々の音漏れがあるからこそ、スマートガラスをONにしても、誰かがドアを開けてしまうという事態が起こりにくいです。

準備の手間や音声トラブルを防ぎ、誰でも すぐにオンライン会議を開始できる状態に。

オンライン会議を実施する際、これまでは自分のデスクでそのまま実施するのか、あるいは、会議室で実施するのかを決め、その後、LANケーブル、イヤホンまたはスピーカー、カメラを準備する等、実施前にいくつかの工程がありました。結構手間なんですよ。

そういった手間が毎回ある点に加えて、オンライン会議をスタートした直後に、準備の不備で音声のトラブルが発生するといったこともありました。

現在、弊社ではOne-Boの中にPCやLANケーブル、スピーカーといった必要な機器を据置で設置し、すぐにオンライン会議がスタートできる状態にしてあります。なので、準備に手間取ったり、音声のトラブルが起きるといったことはもうありません。

One-Boの中にオンライン会議の環境を整えた点は、ITが得意でない他の社員にとってもかなり助かっていると思います。



会議やMTGの質がかなり上がるので、費用対効果はとても良い。

個人の消費者感覚ですと50万～60万と言われたら、値段としては高いなと思いますが、オフィスに設置されることによってもたらされる利益のことを考えると、決してすごく高いとは思いません。企業や組織という視点で考えると、会議やMTGの質がかなり上がるので、むしろ安いほうかなと私は思います。

また、オンライン会議を実施するための個室ミーティングボックスは他社製品でもいくつかありますが、One-Boはその中でも圧倒的に低価格ですし、必要な機能はしっかり揃っていると感じています。

ですので、費用対効果という点で考えると、とても良いものではないかと思えますね。

デジタル化に対応していくためには、One-Boのようなハードを活用していくことも大切。

コロナの影響で、会議の方法、仕事の進め方等、あらゆることのデジタル化が進んでいく中で、会社としてその変化に対応していくことはとても大事なことだと思います。

「デジタル化」という言葉からは、オンライン会議のシステムや情報共有ツール等、ソフトの部分が頭に浮かび、それらをどのように活用していくかを考えがちですよね。けれどもOne-Boのようなハードも活用して、デジタル化に対応していくことはとても大切だと、今回のOne-Bo導入をきっかけに改めて感じました。

会社としても個人としても、視野を広くして、今後さらに加速していくデジタル化の波に、しっかりと対応していきたいですね。

※ インタビュー実施 2021年3月16日